

などともいった。冬に、年一回くらいは村に廻ってきて、宿をきめて泊めて皆できいた。大正末で終ったかと思う。

民俗芸能には、日本の伝統的な物語や、芸能が含まれており、裏には一貫した信仰の習俗が流れているので村の生活をふりかえり、郷愁をそそり、心温まるものである。そして節の廻ってきたのを知り「今年もまた」と豊年を予祝して野良に立ち、はげむのである。

(本文おわり)